

景観形成基準【田園・里山エリア】(1)

行為の区分	配慮する事項	田園・里山エリア
1. 建築物及び工作物の新築、増築、改築、移転又は外観の変更	(1)配置	<p>ア できるだけ前面道路から後退させるとともに、道路側に空地を確保するよう努めること。</p> <p>イ 隣地の敷地境界からできるだけ離し、ゆとりのある空間を確保すること。</p> <p>ウ 敷地内に大径木や良好な樹林、樹木や河川、水辺などがある場合は、これらを活かせる配置とすること。</p> <p>エ 北信五岳などの山並みの眺望を極力阻害しないような配置とすること。地形の高低差がある場合は、それを活かして周囲の自然景観と調和するような配置とし、稜線や斜面上部への配置はできるだけ避けること。</p> <p>オ 野立ての太陽光発電施設は、特に支障のある場合を除いて、前面道路との境界線から5m以上後退するように努めること。また、景観重要眺望点又は景観重要眺望路線から視認されにくい場所に配置するなど、周囲及び遠方からもできるだけ目立たないよう配慮すること。</p>
	(2)規模	<p>ア 北信五岳などの山並みの眺望をできるだけ阻害しない規模、建築物等と敷地の釣り合いのとれた高さとする。</p> <p>イ 高さは、原則として、屋敷林などの周囲の樹林の高さ以内に止めること。周囲の樹高以上となる場合は、北信五岳などの山並みや周囲の景観との調和に特に配慮すること。</p> <p>ウ 良好な眺望景観を阻害しないよう、建築物等の高さや規模に応じ、視点からの距離や立ち位置による見え方の違いを考慮すること。特に、沿道から北信五岳などの山並みを望む景観に配慮すること。</p>
	(3)形態・意匠	<p>ア 眺望景観の背景となる北信五岳などの山並みや周囲の建築物等と調和した形態であるとともに、全体としてまとまりのある形態とすること。</p> <p>イ 屋根の形状は、背景の山並みや周囲の建築物の屋根形状との調和に努めること。勾配屋根の場合には、庇や適度な軒の出をつくるなど、地域の景観になじむよう努めること。</p> <p>ウ 壁面などは、大規模な平滑面が生じないよう、陰影などの処理に配慮すること。また、装飾や窓枠の強調などにより、壁面が過度に目立つことがないよう配慮すること。</p> <p>エ 周囲に伝統的な様式を持つ建築物が多い場合には、その様式を継承し、又はその様式の要素を取り入れた意匠とするよう努めること。</p> <p>オ 周囲の基調となる建築物等に比べて、規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により圧迫感や威圧感を軽減し、周囲との調和を図ること。</p> <p>カ 河川、鉄道及び道路に面する壁面等は、公共性の高い部分として、デザイン等に配慮すること。</p> <p>キ 屋上の設備は、壁面やルーバーなどで覆い、外部から見えないよう配慮すること。</p> <p>ク 非常階段、パイプ等付帯設備や付帯の広告物等は、繁雑な印象を与えないようにデザインに配慮し、建築物等本体との調和を図ること。</p>
	(4)材料	<p>ア 耐久性も考慮し、周囲の景観や地域の景観になじむ材料を用いること。</p> <p>イ 反射光のある素材を極力使用しないよう努め、やむを得ず使用する場合は、意匠などの工夫をすること。</p>
	(5)色彩等	<p>ア けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周囲の自然環境や景観と調和した色調とし、原色及び蛍光塗料等の強い印象を与えるものは使用しないこと。</p> <p>イ 使用する色数を少なくするように努めること。</p> <p>ウ 建物の外構で照明を行う場合は、周囲の環境に留意すること。</p> <p>エ 光源を用いるものは、光源が白色系で、動光又は点滅を伴わないものとする。</p> <p>オ 野立ての太陽光発電施設のパネルは、黒、濃紺又は低彩度かつ低明度の色彩とし、低反射でできるだけ模様が目立たないものとする。</p>

景観形成基準【田園・里山エリア】(2)

行為の区分	配慮する事項	田園・里山エリア
	(6)敷地の緑化	<p>ア 既存する植生、地形等は極力残存させる。</p> <p>イ 開発区域内においては、修景及び植栽等を積極的に行う。</p> <p>ウ 敷地境界には樹木などを活用し、門・塀などを用いる場合は、周囲の景観と調和するように配慮すること。</p> <p>エ 建築物等の周囲を緑化することにより、圧迫感、威圧感、違和感の軽減に努めること。特に、壁面の大きな建築物等、遠方から目立たないように配慮した植栽に努めること。</p> <p>オ 野立ての太陽光発電施設、駐車場、自転車置場などを設ける場合は、周囲の緑化に努めること。</p> <p>カ 緑化に使用する樹種は、地域にふさわしいものを選定し、周囲の景観との調和に努めること。</p> <p>キ 河川などがある場合は、樹木を活用して、水辺の景観に配慮すること。</p> <p>ク 社寺林や巨樹、古木など、地域のランドマークとなっている樹木は、できるだけ残すように努めること。</p>
2. 土地の形質の変更	変更後の土地の形状、修景、緑化等	<p>ア 土地の形質変更を必要最小限に留めること。なお、擁壁の必要のない法面等についても、植林、芝張り、植栽等による緑化修景を速やかに行うこと。</p> <p>イ 大規模な法面、擁壁をできるだけ生じないようにし、やむを得ない場合は、緩やかな勾配とし、緑化に努めること。</p> <p>ウ 擁壁は、材料、表面処理の工夫、前面の緑化などにより周囲の景観との調和を図ること。</p> <p>エ 敷地内にある良好な樹林、樹木、河川、水辺などは極力保全し、活用するように努めること。</p>
3. 土石の採取及び鉢物の掘採	採取等の方法、採取等後の緑化等	<p>ア 外部から目立ちにくいよう、採取及び掘採の位置、方法を工夫し、周囲の緑化などに努めること。</p> <p>イ 採取及び掘採後は自然植生と調和した緑化などにより修景すること。</p>
4. 屋外における物件の集積又は貯蔵	集積、貯蔵の方法及び遮へい方法	<p>ア 物件を積み上げる場合には、高さをできるだけ低くするとともに、整然と、かつ威圧感のないように積み上げること。</p> <p>イ 道路などから見えにくいよう遮へいし、その際、植栽や木塀の設置などにより周囲の景観との調和に努めること。</p> <p>ウ 使用済みの自動車、電気製品等を集積、保管又は放置しないこと。ただし、やむを得ず集積、保管しなければならないときは、景観を損なわないように必要な措置を講じること。</p>
5. 屋外における広告物の表示又は掲出※ ※公衆の関心を引く目的で外観に施される形態又は色彩その他の意匠(特定外観意匠)に関する付加基準	(1) 配置	<p>ア 道路などからできるだけ後退させるように努めること。</p> <p>イ 河川などの水辺や山並みなどの眺望を阻害しないように努めること。</p>
	(2) 規模、形態・意匠	<p>ア 周囲の景観に調和する形態・意匠とし、集合化するなど必要最小限の規模・数量とすること。</p> <p>イ 周囲の建築物の屋根の高さを超えないように努めること。</p> <p>ウ 広告物や支柱が汚損又は老朽化した場合は、速やかに修繕又は除去すること。</p>
	(3) 材料	<p>ア 周囲の景観と調和し、耐久性に優れ、退色・はく離などの生じにくいものとする。</p> <p>イ 反射光のある素材は、極力使用しないように努め、やむを得ず使用する場合は、意匠などの工夫をすること。</p>
	(4) 色彩等	<p>ア けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周囲の自然環境や景観と調和した色調とし、原色及び蛍光塗料等の強い印象を与えるものは使用しないこと。</p> <p>イ 使用する色数を少なくするように努めること。</p> <p>ウ 光源で動きのあるものは、原則として避けること。</p> <p>エ 汚損した広告物や支柱が老朽化した広告物は設置しないこと。表示又は掲出の目的を満たさない状態で、特に意図なく放置しないこと。</p>